



ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 263
February
2015

トピックス

国際会議への参加

第7回（2015年第1回）
アジア太平洋経済協力
（APEC）緊急事態の備
え部会（EPWG）

ADRC客員研究員 レポート

¶ オルテガ・アミー
ラ・パラル
（フィリピン）

¶ ムサ・ファティマ・
ショーシャン
（モルディブ）

Asian Disaster Reduction Center アジア防災センター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通
1-5-2 東館5F

Tel: 078-262-5540
Fax: 078-262-5546
editor@adrc.asia
http://www.adrc.asia

© ADRC 2015

●国際会議への参加

第7回（2015年第1回）アジア太平洋経済協力（APEC）緊急事態の備え部会（EPWG）

EPWGは、2011年の東日本大震災やタイ大洪水に伴うサプライチェーンの寸断が世界的規模で経済に影響を与えたこと等を背景として、民間企業、特に中小企業の事業継続計画（BCP）の普及に取り組んでいます。アジア防災センター（ADRC）は、所長がEPWGの共同議長を務めるとともに、APECエコノミー内の中小企業BCP普及状況の調査等を通じてEPWGの活動に貢献してきました。

EPWGの今年第1回目の会合が、高級実務者会合（SOM）と併せて、本年1月27～28日にかけて、フィリピン・サビック自由港区において開催され、APECエコノミーの防災担当者等約30名が参加しました。

同会合の主な目的は、本年のEPWGの昨年の活動の総括と今年の活動計画の検討であるが、かつてADRCが作成した中小企業向けBCP作成パンフレットの多言語版（英・日・中・インドネシア・タイ・ベトナム・スペインの各国語：日本語への翻訳はADRCが実施）についてとりまとまった由の報告がありました。

さらに、昨年及び過去の大災害の概要と教訓についての情報交換があり、開催地であるフィリピン国政府からは、一昨年の台風ハイヤンの被害の概要、その教訓を生かした防災システムの改善と及びそれが昨年の台風ルビー対策に生かされた由の報告がありました。また、日本国政府からも昨年の御岳噴火及び広島市の土砂災害について報告がありました。ADRCからも、今年が阪神・淡路大震災20周年に当たることから、今年1月17日前後に開催された国際シンポジウム等において情報発信された阪神・淡路大震災の教訓について紹介しました。

最後に、今年度の議論について、他の分野のWGと異なり、EPWGには閣僚級の会合が存在しないことから、WGにおける検討の実効性を高めるためにも、閣僚級会合の設置について検討することになりました。

●ADRC客員研究員レポート

オルテガ・アミーラ・パラル（フィリピン）

はじめまして。私はフィリピンから来ました、オルテガ・アミーラ・パラルと申します。私は、2009年からフィリピンの民間防衛室（OCD: Office of Civil Defence, Department of National Defence）で民間防衛官として働いています。以前は、避難訓練の運営や、政府団体・NGO・地方及び国際関係機関と連動した、防災関連の業務の実施などに、チーフとして携わってきました。また、実際の災害時における緊急対応時においては、被災地における支援物資の調整、物資運搬に伴う輸送経



続き

路の確保なども対応してきました。あわせて、被災地の情報を取りまとめる災害状況報告を整理し、フィリピン国家災害リスク削減委員会（NDRRMC: National Disaster Risk Reduction and Management Council）の警報チームのリーダーとしても従事していました。

現在は、フィリピン中部ルソン地方に位置する、サンフェルナンドにおいて、民間防衛室Ⅲのオペレーションセンターのチーフとして働いています。フィリピンでは、地域レベルでは民間防衛室の局長が、地方災害リスク削減委員会（RDRRMC: Regional Disaster Risk Reduction and Management Council）の議長としても、役割を担当しています。民間防衛室Ⅲが対応するエリアはとても広域で、7つの州と中央ルソン、2つの都市部をカバーしています。このオフィスでは、私は災害の緊急対応時において、社会福祉開発省（DSWD: Department of Social Welfare and Development）の副議長との連絡役として従事しています。

最後に、今回客員研究員としての機会を頂いたADRC、日本政府に感謝を申し上げます。ADRCに着任中、私の希望する研究テーマ、「日本とフィリピンにおけるダム機能と安全性に関する比較研究」について取り組み、ブラカン州の住民の方々、民間防衛室Ⅲ、NDRRMCの防災に貢献したいと思います。

ムサ・ファティマ・ショーシャン（モルディブ）

はじめまして。私はモルディブから来ました、ムサ・ファティマ・ショーシャンと申します。モルディブでは、国防省の国家防災センターに所属しています。私が働いている国家防災センターは、防災に関する様々な業務を実施しています。例えば、防災に関する制度設計、温暖化対策、緊急時における仮設住宅の設置、災害で被害を受けた家屋やインフラの復旧対応などを行っています。さらに、災害前の準備段階においては、各種災害に適切に対応するためのプログラムの実施、住民と同様に政府や政府関連機関の防災意識啓発の事業なども対応しています。また、兵庫行動枠組み（HFA）の理念に沿うべく、新たなモルディブ国家開発計画に、政策開発や法律制定などを適応させて、災害リスクの軽減に努めています。国家防災センターにおいての私の役割は、災害状況報告の取りまとめや、損害評価の方法論の検討などを実施することです。



今回、客員研究員として機会を頂いたことにつきまして、気候変動、地震、津波、洪水など様々な災害に関するリスク管理の知識や経験を充実させる、素晴らしい機会だと思います。日本は、防災について学ぶことが出来る素晴らしい国だと思います。今回の得られる経験が、モルディブの防災の分野において、きっと貢献できることを信じています。

ADRCに着任している間は、主に、日本の津波早期警戒体制について学びたいと思います。ご存じの通り、モルディブは2004年のスマトラ島沖地震を経験し、大きな被害を受けました。モルディブは1,200の島々から形成され、国土の99%は海洋で占められています。次なる災害に備えるため、本テーマに取り組みたいと思います。

最後に、今回客員研究員としての機会を提供して頂いたADRCならびに、日本政府に感謝を意を表したいと思います。また、このような素晴らしい機会に同意を頂いた、モルディブ政府につきましても、深くお礼を申し上げます。

問い合わせ・配信申し込み

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は editor@adrc.asia までEメールをお寄せください。